

透析患者の血中 BMG に与える透析用水中の微粒子の影響

第 47 回 日本透析医学会学術集会

佐々木敏作・南 美枝子・脇川 健・山田明子¹ / 丸山禎之・和田 茂² (大阪掖済会病院 内科¹ / 透析室²)

【目的】従来透析液中のエンドトキシンをはじめとする不順物質が透析患者の慢性炎症刺激を惹起することが知られています。また、我々は透析用水中の水質管理にその微粒子数の測定が簡便で有用であることを報告してきました。そこで、透析用水中微粒子数の変化が透析患者の血中 BMG 変化の指標になり得るかを検討した。

【方法】対象患者は平成 11 年 5 月より平成 13 年 12 月の間、当院で維持血液透析を受けている患者 39 名(男 13 名、女 16 名)。継時的に CRP、WBC、血中 BMG を、また透析用水中のエンドトキシン、微粒子を測定し比較検討した。微粒子の測定は MILPA (ミクニキカイ)で行った。

【結果】セルロース系膜使用患者で 3 名、合成膜使用患者で 2 名はその血中 BMG と透析用水中の微粒子数の継時的な変化に有意な正の相関が認められた。しかし、群全体では優位な関連は認められなかった。

【結論】透析用水中の微粒子数は透析患者の血中 BMG の変化に影響を与える因子である可能性が示唆された。